

## 本邦初、航空機地上支援器材の EV コンバージョン 全日空モーターサービスが廃棄対象のベルトローダーを EV 車両へとアップサイクルしました

- 全日空モーターサービス(株)の技術で、空港内で飛行機への手荷物搭載時に使用するベルトローダーを EV 車両へとアップサイクルしました。
- 航空機地上支援器材の EV コンバージョンは日本のエアライングループで初の取り組みです。
- ANA グループの地上における脱炭素へのソリューションの 1 つに育てていくことを目指します。



地上支援器材を通じて、航空機の運航を支える ANA グループのエンジニアリング・カンパニー、全日空モーターサービス株式会社(以下「ANAMS」)は、空港内で使用する GSE<sup>※1</sup>において、廃車対象となった手荷物搭載車輛(ベルトローダー)をディーゼルエンジンから EV 化<sup>※2</sup>した車両にアップサイクルしました。EV という最新技術を駆使して新しい車両へと蘇らせる GSE の EV コンバージョンは、日本のエアライングループで初の取り組みです。

※1 GSE (Ground Support Equipment) : 航空機地上支援器材

※2 EV (Electric Vehicle) 化 : 電力を供給源とした動力

このアップサイクルは、ANAMS の社員の発案から始まりました。ANA グループの知識を集約し、ANAMS の技術で GSE の EV 化を成し遂げました。対象のベルトローダーは、1994 年の使用開始から 29 年間、成田空港で使用され、2022 年に廃棄対象となったものを修理、修復を行った上で、構造改造の設計、電気回路の組み上げ、EV 用専用バッテリー・モーター・減速機の搭載などを実施し、電力による完全稼働に成功しました。一般電力から充電器を介して充電が可能となり、車両走行、荷役部分の稼働を含め、全ての動力源が電力となります。

EV 加速への期待や航空市況の復元に伴い、EV GSE 車両の輸入価格は高騰を始めており、自社開発による EV 型車両のメリットは経済的にも期待できます。今回の取り組みは、ANAMS の長年の GSE 車両への技術力を基盤にしたアップサイクルに貢献する取り組みであり、ANA グループの地上における脱炭素へのソリューションの 1 つに育てていくことを目指していきます。

## 【EV ベルトローダー概要】

動力源	従来のベルトローダーは、軽油を燃料とするディーゼルエンジンで稼働 EV 化後は、リチウムイオンバッテリーの電力による電気モーターで稼働
稼働時間	1 回の充電(最短 60 分)で、羽田空港における 1 日の運航便の使用を想定
使用年月	従来のベルトローダーは平均 20~25 年使用し廃棄 修復、EV 化により、上記に加えて 15 年程度の継続使用を想定

特別塗装については、ANA の取り組み ANA Future Promise Jet をデザインした久世迅氏に依頼し、デザインを合わせることで、空と地上のサステイナブルな取り組みを推進してまいります。また、今回 EV コンバージョン作業にあたっては、一般社団法人電気自動車普及協会の多大なご協力をいただきました。

今後、2024 年夏頃を目途に、羽田空港にて運用開始を目指します。また、継続的に廃棄対象となる車両の EV 化を進めてまいります。

### 全日空モーターサービス株式会社

<https://www.anams.co.jp/>

創業 : 1969 年 12 月 1 日

売上高 : 34 億 9 千万円(2023 年度)

従業員数 : 118 名

代表者 : 代表取締役社長 辻村 和利

本拠地 : 東京都大田区羽田空港 3 丁目 5 番 6 号

主な事業 : 1. GSE 整備・管理事業

全国 1 万 4,000 台数のうち 羽田空港 2,800 台、地方空港 3,300 台

GSE の種類 40 車種

2. PBB 整備・販売事業

全国 累計 132 基設置 現在配備 85 基(羽田空港、仙台空港など 24 空港)

メンテナンス 101 基受託(25 空港)

バリアフリー型 PBB(EASYWALK®)の特許を取得済

\* 特許第 5073109 号(2012 年 8 月登録)

以上

### 【報道機関からのお問い合わせ先】

ANA ホールディングス株式会社 広報・コーポレートブランド推進部 03-6735-1111